

対象高等専門学校の現況及び特徴

1 現況

(1) 高等専門学校名 広島商船高等専門学校

(2) 所在地 広島県豊田郡大崎上島町東野4272-1

(3) 学科等構成

学 科：商船学科，電子制御工学科，流通情報工学科

専攻科：海事システム工学専攻（H17.10～学生受入），

産業システム工学専攻（H17.4～学生受入）

(4) 学生数及び教員数（平成17年7月1日現在）

学生数：学 科 商船学科 196名

電子制御工学科 171名

流通情報工学科 190名

計 557名

専攻科 海事システム工学専攻 6名

産業システム工学専攻 9名

計 15名

（専攻科の学生数は，平成17年10月1日現在）

教員数：校長 1名，商船学科 15名

広島丸 4名，電子制御工学科 11名

流通情報工学科 11名

一般教科 15名

計 57名

2 特徴

本校は、1898年（明治31年）5月に豊田郡東野村外12か町村組合立芸陽海員学校として瀬戸内海の大崎上島に創設以来、100有余年の歴史を有し幾多の名称・組織・制度の変更を経てきたが、主なものは次の通りである。

1901年 広島県立商船学校と改称。

1940年 文部省直轄の広島商船学校と改称。

1943年 官制改正により運輸通信省所管となる。

1951年 官制改正により文部省へ移管，広島商船高等学校と改称。

1967年 国立学校設置法の改正により現在の名称になり，航海学科と機関学科で発足。

1985年 航海学科2クラスを1クラスとし，流通情報工学科設置。

1988年 航海学科と機関学科を商船学科1クラス（航海・機関コース）に統合，1クラスを電子制御工学科に改組。

2005年 専攻科（海事システム工学専攻，産業システム工学専攻）設置。

本校が100年以上にわたって培ってきた船員教育を背景に船舶運航技術者，船舶管理，港湾システム等に関する海事技術者を社会に送り出し，我が国の国際物流の重要な役割を担ってきた。更に近年の社会的要請や産業構造変化に伴い，電子制御工学科と流通情報工学科という工業系の学科を設置し，社会の要請に応える技術者を輩出してきた。その結果，準学士課程の就職希望者の就職率並びに進学希望は100%に近い状態を維持し今日に至っている。

商船学科は，工業高専の修了期間より半年長い5年半で，4年半の座学と独立行政法人航海訓練所で1年間の実地訓練で構成された優れた制度であり，卒業時に三級海技士（航海又は機関）免状を取得できる。

電子制御工学科は，船舶の機関学科の持つプラント技術を基盤にして新たにシステム制御技術の教育研究を行い，特に電気電子，コンピュータ制御等を通して「ものづくり」の最前線を担う技術者を養成している。

流通情報工学科は，本校の船員教育を基盤にして国際的に発展する流通・物流の教育研究を行う学科で，物流に情報を導入し経済効果まで視野に入れた学問分野である。本学科は高専の中では唯一の学科というユニークな存在でもある。

本校は2003年3月にISO14001環境保全システムプログラムを我が国の高専で最初に取得した。理由は，本校の所在が瀬戸内海の中央付近にあり，この環境を守るべきこと，本校の練習船「広島丸」による海洋汚染や大気汚染の防止を考慮すべきことなどがある。このプログラムを実行することにより，卒業研究を中心とした研究などに，環境保全に関連した内容を挿入し，環境保全に意識を持った人材，新しい課題への限りない挑戦を目指す人材，柔軟な考え方と強靱な精神力を持った人材の育成に努めている。近年は「実践的なものづくり」や創造的学習も兼ねて，実験実習，卒業研究，ロボコン，プロコン等を通して創造する喜びを自ら学び，特にロボコンでは全国大会連続出場を果たしている。また，人間的教育の場としては，クラブ活動や大崎上島で島内清掃などを中心としたボランティア活動があり，それらを通して学生に社会性や規律の重要性，環境汚染防止等を認識させ地域住民との共同作業も実現している。更に練習船「広島丸」を商船学科学生の実験実習，教職員の研究，地域の企業や地方自治体等にも広報し，積極的に利用している。